

明治 16 年の建物調べと歴史的建造物

飯能市立博物館 学芸職員 尾崎 泰弘

昨年の 11 月で取り上げた明治 16(1883)年 2 月作成の「〔徵發物件調〕」(双木利夫家文書No.326、以下「調」と略)には、当時の飯能町の建物がほぼすべて書き上げられていると考えられます。今回は現在遺る、あるいは近年まで残っていた店蔵をこの記録と照らし合わせてみましょう。

○店蔵・新井家住宅（中清商店）

飯能市教育委員会『飯能の民家』(平成 13 年、以下『民家』と略)に掲載されている図面から、現存する店蔵は間口 5 間半、奥行 3 間で、建築は明治初期と推定されています。「調」の新井清平家には、5 間半 × 3 間の見世土蔵 1 棟が書き上げられ、現存する店蔵が明治 16 年には存在していたと考えてよさそうです。そのほかおろし、平家建 1 棟、土蔵 3 棟が書き上げられています。『民家』掲載の図面には敷地内に袖蔵を含め 3 棟の土蔵が確認できますが、袖蔵は少なくとも幕末の慶應 2(1865)年には存在していたことが確実で、「調」にもこれと同じサイズ(5 間 × 2 間半)の土蔵が記されています。



新井家住宅の店蔵（写真）新井景三氏蔵

○小槻家住宅（入口電業）

『民家』には、間口 3 間、奥行き 2 間 3 尺の「瓦葺き木造 2 階建付土蔵」が記載された明治 38 年の史料が紹介されています。「調」には土蔵は書き上げられていないので、この見世蔵は明治 16 年から同 38 年の間に建てられたことがわかります。このほか同家に現存する土蔵も同様に明治 16 年以後の建築となります。



小槻家住宅の店蔵

○大河原家住宅（大河原薬局）

平成 20(2008)年まで残っていたこの店蔵は、『民家』の図面では間口約 4 間、奥行き 3 間半弱であり、明治初期の建築と推定しています。しかし、「調」にある土蔵は 1 棟のみで 3 間 × 2 間半となっており一致せず、明治 16 年以後に建築されたものと思われます。



現存しない大河原家住宅の店蔵

○田口家住宅

令和 2(2020)年まで現存していたこの店蔵は、残念ながら『民家』には掲載がありません。ただし大河原家住宅のところで、棟札からこの建物が明治 4 年に棟上げされたことが記されています。



現存しない田口家住宅の店蔵

「調」には 2 間半 × 5 間の見世土蔵が記載されており、間口と奥行きが逆になっていますが、この建物を指していると考えられます。

本市における町屋建築の悉皆調査は、平成 11・12 年度に東海大学羽生研究室を中心に行われ、多くの成果が得られました。本稿も多くはそれに拠っていますが、この時にこの「調」に記載された情報を提供できていたら、得られる情報量も違っていたかもしれません。まさに後悔先に立たず、です。

【参考文献】

飯能市立博物館特別展「飯能縄市」展示図録 令和 3(2021)年 10 月